

## 神戸市会 会議録

2007.10.04 : 平成 19 年決算特別委員会第 1 分科会〔18 年度決算〕(国際文化観光局等)

### 本文

#### (一部抜粋)

90 : 分科員(北山順一)

分科員(北山順一) 大変楽しい話でございましたし、最後は、あんまり楽しくないかもわかりません。かたい話をさせていただきたいと思います。

先日の企画調整局でも同じようなことを聞いております。けども、私は、神戸がデザイン都市を目指すんだと、こういう宣言を市長がしておりますし、今日まで、神戸市はファッション都市だとか、アーバンリゾート都市だとか、アスリートタウン都市だとか、いろんなことを言ってきた、その集大成のまち、これがデザイン都市だと、こういうふうに私自身は考えております。そういう意味から、大変大きな期待を込めて、それらを達成するために必要な局というのは、全局が関係すると思っておりますが、この国際文化観光局というところは、その中でも主役を果たしていただかなければならない局だと、こういうふうに思っておりますので、お伺いをいたします。

まず、異人館を生かした観光振興についてということで、お伺いをいたしたいと思います。異人館の神戸市の状況というものは、戦争前は 200 以上の異人館が神戸にはあったようでございますけれども、1995 年には 71 棟になり、2003 年には 56 棟になってしまっておると。こういうふうな状況で、さらに今は減っておるのではなからうかと。こういうふうなものが減るのではなくて、ふやして行ってほしいと、こういうのが私の願いなんです。これは何でふえるんだと言ったら、いろんな都市で減らされつつある、つぶされつつあるようなものを神戸市は引き取って、神戸でどんどん建ててほしいということが、私の願いであります。

先日の企画のときにも申し上げたんですが、ポートアイランドの北公園にある異人館だって、大変寂しい思いして建つと思うんですわ。あれ 1 棟建つたって仕方ないと思うんで、そういうところも含めて、異人館のまちとしての神戸のステータスをもう 1 度取り返すと、こういう立場でご答弁いただきたいと思っております。

もう 1 つは、国際的な映画祭の開催ということ、私は前々から提案をいたしております。私が提案しましたところは、公園を使うとか、あるいは港を使うとか言ったら、この公園は市民のもんだから、1 映画の撮影のために使えないとか、港は仕事をやっとうとこだから、あかんのだとか言っておりますけれども、神戸にフィルムオフィスができてからは、そういうところは積極的に誘致をしてきておると。今そういうふうな努力を一生懸命しておるんですから、神戸を映画祭、映画のメッカにしてほしいと、こういうのが私どもの願いであります。その時分から言っておるものでございますので、十分 1 回検討していただきたいな、こういうふうに思っておりますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

それから、もう 1 つ、神戸市内の領事館について、これについても申し上げたいと思いますが、1959 年には 17 館あったということが記録に残っております。それが廃止されたり、あるいは大阪へ移転したりし

て、現在はパナマ領事館のみとなっております。領事館が市内に存在するということは、神戸に居住したり、あるいは滞在する外国人の方の利便性の向上、あるいは国際都市としてのステータスの向上、こういうふうなことが大変大きな意義があると思うんです。国際的なイベントや国際機関、外国企業の誘致などを進めていく上においても、領事館というのは非常に大きなウエートがあると、こういうふうに私どもは思っております。

そういうことから見ていくと、神戸で開催されておる国際会議というのを見てまいりますと、毎年、順位は違うんですけれども、震災で大変な目に遭ったときでも、神戸は全国で5番目の国際都市の開催地でありました。それがだんだんふえてきたんですけれども、1998年には、日本で3番、2000年には4番ということになって、2001年、2002年も3番、3番、2003年は4番、こういうふうになっておりますけれども、今は6番なんですね、6番。これ、だから随分よそに追い抜かれておるということもよく自覚した上で、これも領事館に関係あるんじゃないかなと、こういうふうなことも考えていただいて、神戸市は企業誘致するために、いろんなインセンティブをつけてまいっております。企業誘致のためのインセンティブをつけておると同じぐらい、企業を誘致するぐらい、あるいはそれ以上の、私は領事館の誘致ということは価値があると、こういうふうに思っておりますので、局長のご見解をお伺いしたいと思います。

以上です。

#### 91： 大森国際文化観光局長・観光監

大森国際文化観光局長・観光監 まず、私からは、異人館を生かした観光振興、進めていくべきではないかということですが、それに対しまして、ご答弁申し上げたいと思います。

ご存じのように、北野の山本地区には、明治以降、外国人住宅地として発展しましたことから、多くの洋風建築物が建てられておまして、デザインや色調が異なる、変化に富んだ外観を有する異人館が現存しておまして、洋風建築と和風建築が混在する独特なまち並みが、国の重要伝統的建造物保存地区にも選定されておるところでございます。また、ちょうど30年前のNHKドラマ「風見鶏」の放送をきっかけといたしまして、異人館ブームが起こりまして、それ以来、神戸を代表する観光地となり、今までも多くの観光客が訪れているところでございます。

北野・山本地区では、個々の異人館はもちろん大切な観光資源でございますが、開港以来、外国文化と、それまでの生活を調和させてきた個性的なまち並み形成の歴史や、そこにお住まいになっておられる人々の暮らしそのものがまちの大きな魅力となつてございまして、貴重な観光資源となっているのではないかと考えてございます。したがって、そういった独特の歴史を持つ既存のまち並みを異人館のまちとして生かして、観光振興を進めていくことが重要ではないかと考えてございます。

また、文化財としての異人館という点におきましては、これは相楽園の旧ハッサム住宅とか、王子公園の旧ハンター邸など、それなりに市内で移築に努めて、保存活用をしているところではないかと思っております。

委員ご指摘のとおり、異人館の数につきましては、残念ながら、震災の影響や老朽化によりまして減少しておまして、現在、公開されている異人館につきましても、レストラン、喫茶を含めまして、約20館となっていると考えてございます。

このような中で、異人館のある美しいまち並みの維持については、地元や関係部局とも連携して取り組む一方、先ほども少し申し上げましたが、ことしは、特にドラマ「風見鶏」の放送 30 周年でございますので、それを記念して、ちょうど、あす以降でございますが、ドラマのヒロイン役の新井晴みさんにお越しいただいたりしておりまして、そういった 10 月の期間中に、さまざまなイベントを計画いたしております。

特に北野の異人館のよさにつきましては、まちそのものを知っていただきますように、非公開の異人館を特別に見ていただきます異人館歴史ウォークといったようなものを企画いたしております、こういった形で北野の活性化を図る取り組みを行ってまいりたいと考えてございます。

また、移転の事例等につきましても、当然ながら研究しながら、いろいろと異人館のまち、異人館を生かした観光振興といった点を進めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

## 92： 井上国際文化観光局文化観光部長

井上国際文化観光局文化観光部長 映画祭の誘致について、ご答弁させていただきます。

映画祭をはじめとした国際的な文化芸術イベントといいますのは、単に文化芸術の発信だけではなくて、内外からたくさんのお客さんに来ていただけるという意味では、非常にまちの活性化にもつながるんじゃないかと思っております。

そういう意味では、神戸もそういった、いわゆるコンペティションシティというようなことで、いろんな国際的なものを誘致をしていきたいとは思っております。ただ、映画でも、まだそこまではいってないんですけども、ただ、神戸が、もともと映画発祥の地ということもありまして、これは民間の NPO が、現在、主催されておりますけども、神戸 100 年映画祭というのが平成 8 年から始まっておりまして、それに加えまして、平成 11 年からは、10 年に淀川長治さんが亡くなられたということもありまして、この 100 年映画祭にあわせて、淀川長治メモリアルといったようなイベントもあわせて開催をされております、これについては、まだ国際的とまではいっておりませんが、国内では愛好者には人気があるというイベントに育ってきております。

それから、映画以外では、若手のフルートの登竜門として、ちょうどユニバーシアードの始まった昭和 60 年に、第 1 回の神戸国際フルートコンクールを始めておりまして、これは、今や世界三大コンクール

四大コンクールですね、その 1 つの数えられるぐらいになっておりますし、ジャズの面では、神戸もジャズの発祥の地ということで、ジャズポークルクイーンコンテストといったものをやっております。

それから、先ほど参事から説明ありましたように、今回、ピエンナーレをやるわけですけども、ピエンナーレにおきましても、そのコンペティション方式を採用しております、特に、さきにもありましたように、コンテナの中で映像をはじめとする現代アート作品を展示していこうという、アート イン コンテナといったようなものも、1 つの世界的な・国際的な芸術祭かなという位置づけは、我々は持っております。

そういう意味では、今は、現在育ちつつある、こういった文化芸術イベントをまず継続的に、何とか発信をしていくということが大事なのかなと思っておりまして、そういったようなことを継続実施すること

で、神戸の芸術文化を発信をしていくと。映画祭は、その先にあるのかなという気はいたしております。  
以上でございます。

93： 上田国際文化観光局国際推進室長

上田国際文化観光局国際推進室長 私の方からは、領事館の誘致の関係について、ご答弁を申し上げます。

ご指摘のとおり、1959年には、神戸にあります領事館の数は17を数えましたけども、その後、廃止とか、あるいは大阪への移転が続きまして、現在、神戸市内にあります総領事館は、パナマの1カ国のみとなっております。こうした移転とか廃止の主な理由としましては、領事館の業務の中心が、領事業務から経済交流を中心にシフトしたということ、それから、外国との窓口が海から空の方に変化をしてきたと。さらには、本国の政治経済状況でありますとか、あるいは統合によるリストラといいますが、経費の節減、こうしたことが理由として上げられておりますけども、1995年に起こりました震災、これがこうした領事館の流出の動きを加速させることになったわけでございます。

領事館については、その都市としての国際的な評価でありますとか、あるいはさまざまな国際的なイベントの誘致、あるいは外資系企業の誘致とか、こういうことを進めていく上で、領事館の存在効果というのは、ご指摘のとおり、大きいというふうに考えてございます。

神戸市の方では、震災後、大阪に移転しました総領事館を中心に、神戸にこれを復帰させるということに向けて、また、平成13年でございますけども、韓国総領事館が、大阪総領事館の神戸事務所に機能縮小されましたけど、これが総領事館にまた戻るようにということを目指しまして、県あるいは関係機関とも連携をしながら、取り組みを進めてございます。

領事館誘致につきましては、過去の市外移転の主な理由が、経済交流の重視だということ踏まえた上で、神戸の持ちます住環境等の優位性でありますとか、あるいは神戸空港の開港による都市インフラの飛躍的な向上などをPRして、領事館との関係の緊密化を図るということで、神戸領事館等協力協議会を神戸市が中心になりまして、あるいは県、商工会議所とともに設置をいたしました。

これまで、神戸の視察を実施するなど、領事館等が実施します文化経済交流事業のワンストップサービスの窓口としまして、広く神戸をPRしてまいりました。

それから、領事館の誘致に当たりましては、やはり多面的なアプローチが必要であろうかというふうに考えてございます。一定の条件が整えば、既存の外資系企業向けの賃料補助制度、これも活用してまいりたいと考えております。

また、ご指摘のような領事館機能につきましては、領事館そのものではなくて、例えば機能の一部を誘致するというようなことにも、現在、取り組んでございまして、経済機能を持った事務所の誘致について、既に、今個別に交渉しているところも出てきてございます。

なお、領事館等の外交効果につきましては、通常は固定資産税は全額免除になっておりますので、そういう意味でも、領事館についてはそうしたインセンティブをある程度加えれば、ある程度の効果が出てくるのではないかというふうにも考えてございます。

そういいましても、領事館誘致といえますのは、やはりいろんな条件のもとで、本国政府の決定がなさ

れますので、一朝一夕に実現するようなものでございませぬけども、今後とも、神戸領事館等協力協議会などの活動を通して、領事館と神戸との結びつきを一層強化することによりまして、神戸への誘致に粘り強く取り組んで、国際都市のイメージアップにもつなげてまいりたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

94： 分科員（北山順一）

分科員（北山順一） それでは、もうちょっとだけ質問させていただきます。

領事館の誘致についてということで、それぞれ今までのように、あの地域、あそこにアメリカの領事館があって、こちらにイギリスの領事館があってというふうな形ではなくて、私は、神戸市が企業を誘致するときと同じような気持ちになれば、領事館ビルを建てて、そのビルの中に、アメリカやドイツやイタリアやら全部入ってもらおうと。そういうふうなもので、共益費ぐらいは負担してくださいよと。そういうふうな形で、私は誘致に努めてもらえば、うまくいくのではないかなと、こういうふうに思っておりますので、その点についても、1回考えていただきたい。

それから、もう1つ、先ほど、映画祭については、今いろんなことをやっておるので、それらを全部やり遂げた後の、その先ではないかなと、こういうようなことを言われますと、さっき、浦上議員が言った6,000万という数字を考えると、映画祭を神戸でできると。前は手がかりがありませんと言うたんだ、いつか、前の局長は。何代か前の局長ね。手がかり、私は、どういうふうにしたら来てもらえるのか、さっぱりわかりません言うからね。わからんところからやっていくのがほんまいいんですけども、今は、フィルムオフィスがあるんで、いっぱい手続ができるんです。そういうことから考えて、いろんな事業の先にあるんだということやなくて、事業と並んで、あるいはそれより優先して、映画祭、神戸へ持ってきてたいと、こういう意欲のあるところをご回答いただきたいと思います。

以上です。

95： 井上国際文化観光局文化観光部長

井上国際文化観光局文化観光部長 意欲があるところという、確かに映画祭で有名なのは、委員ご存じのように、カンヌ国際映画祭とか、ベネチア国際映画祭とかというのが非常に世界的に有名でございます。日本では、東京の国際映画祭というのが、比較的最近有名になりつつあるという段階なんですけども。

これ、いろいろ調べてみますと、かなり開催経費等かかっておりまして、今すぐ神戸というのは、なかなか実際問題難しいところがあるんじゃないかと思っております。ただ、ベネチア映画祭というのは、もともと第18回目のベネチアビエンナーレからの映画部門として出てきたという歴史もあるようです。ですから、ベネチアビエンナーレ、初回からずっとやっている中で、18回目の中で、映画部門でベネチア映画祭が出てきたということもありますので、神戸は、今回、第1回の神戸ビエンナーレやりますので、そういった中で派生をしていく的な、そういった中で、我々も努力していきたいなと思っております。

以上でございます。

96 : **上田国際文化観光局国際推進室長**

上田国際文化観光局国際推進室長 領事館ビルを建てて、賃料を免除して、共益費程度の負担で、いろんな国の総領事館に入っていただいたらどうかというようなご提案でございますけども、総領事館というのは、やっぱり外国政府の代表ということで、いろいろ話をしていますと、セキュリティーの問題とか、あるいは国と国との関係もございまして、なかなか同じところに入るというのを、どちらかといいましたら、やっぱり敬遠するようなところもございます。

ただ、いろんなインセンティブを使って誘致するというのは、まさに私ども、今やっていることがございますんで、今後、さらに効果的な方法がないかどうか、いろいろとさらに検討してまいりたいというふうに考えております。

97 : **主査（梅田幸広）**

主査（梅田幸広） 北山委員、まとめてください。

98 : **分科員（北山順一）**

分科員（北山順一） 済みません。次回のピエンナーレのときには、神戸映画祭ができると。これくらいまで取り組んでいただきたいと、そういう意欲を見せて、私、やってほしい。東京国際映画祭言っておりますけれども、あれ、私どもが、神戸で神戸映画祭開いてくださいよ言うたときのことからいうたら、我々の方が先なんですよ、東京より。だから、そういうことを考えてもらったら、神戸の映画祭というのは、神戸でやるんだったら、私、あの時言ったのは、ジョン・ウェインやらゲーリー・クーパーが来たら、すばらしいやると、こう言うたぐらいなんですから、そういうスターが神戸を徘徊してもらおう。そういうふうなことを考えておりますんで、よろしく願いいたします。